

平成 28 年度 学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月21日実施)	総合評価(3月24日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	自立と社会参加に向けた教育課程を編成する	分かりやすく有効な教育課程を編成する 就労につながる具体的な技能の取得を教育計画に組み入れる	集団で学習する内容等は共通した計画とし、個別教育計画に取り入れる 清掃技能検定の受験をめざし、それに伴う技能を実践的に学習する	個別教育計画の中に共通の教育計画が入り、効率的で分かりやすくなったか 清掃技能に関わる学習を、複数の学年で実施し、系統的な指導となったか	①個別教育計画に基づき、教育内容について保護者に丁寧に説明した。また個別教育計画が分かりやすくなるように書式の変更を行った。 ②清掃技能に関わる学習を複数の学年で実施した。1年生では清掃技能の基礎的な学習を、2年生では検定を視野に入れた実践的な学習を行うなど、系統的な指導をした。	①個別教育計画書式の見直しをより書きやすく、読みやすくなるようにする。 ②本校においては、複数学年での清掃検定受験が可能かどうか検討を進める。分教室においては、清掃検定に向けた基本指導を行う上で「職業」の授業の現状の取組内容との調整が今後の課題である。	①(保護者対象アンケート)保護者の98%が個別教育計画の内容について、わかりやすく丁寧に説明していると肯定的な評価をしている。 ②(保護者対象アンケート)保護者の81パーセントが清掃技能検定に向けた実態に応じた指導をしていると肯定的な評価をしている。(学校評議員)このような取組は嬉しい。1年から体験をさせて清掃に興味を持って欲しい。	①共通項目を検討してみたが、入れることで、かえって煩雑になってしまうと考えられた。そこで分かりやすくするために今ある書式を見直した。 ②清掃技能検定に向けた取組は、保護者や学校評議員から高い評価を得ることができたとともに、実際の技能検定の結果も1級合格者を数名出すことができた。学校としても1年生から取組んでいくかどうかを検討する必要がある。	①次年度は、新しい書式を使用する中で、わかりやすく効果的な教育計画となったかを検証する。 ②本清掃技能検定に向けた取組について、複数学年での清掃検定受験が可能かどうか検討を進める。
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	障害や発達に関わるニーズに応じた適切な教育支援を行う	適切な学習指導と合理的配慮の関係を理解した上で支援する 実態把握と指導方法を対応させた個別教育計画を作成する	子どもの発達段階及び希望と特性に合う目標、指導方法、学習環境を整える 本校の自立活動要項を作成し、自立活動コーディネーターを設定することで、個別教育計画作成・学習指導に専門職が関わる体制を整える	保護者・子どもにとって個別的な配慮が出来ていると思えるか 行動及び身体機能に課題がある子どもの教育活動に専門職が関わることができたか	①児童・生徒の実態や保護者のニーズに応じた指導を行った。また、教室や学習環境を整えるなど個別に配慮しながら授業を行った。 ②個別教育計画の作成や指導において、専門職の考えを活用できるように体制を整え、計画的に支援に関わるようにした。	①教材や関り方の工夫などについて協議を重ね合理的配慮を含めた環境整備に努める必要がある。 ②該当クラス内での情報にとどまっていたが、今後は専門職が関わった事例について研修会等で報告し合い、学部として情報を共有したい。	①(保護者対象アンケート)保護者の93%がお子さんや保護者のニーズを取り入れ個別に指導していると肯定的な評価をしている。 ②(保護者対象アンケート)保護者の82%が専門職のかかわった教育支援を実感できると肯定的な評価をしている。	①教職員、保護者とも、肯定的な評価ではあるが、今後も引き続き教材や関り方の工夫などについて協議を重ね合理的配慮を含めた環境整備に努める必要がある。 ②教職員、保護者とも、肯定的な評価ではあるが、専門職を交えた話し合いは、該当クラス内の情報にとどまっている。	①学習指導を進めていく中で、合理的配慮を十分に理解するとともに、それを考慮した教材の工夫をしながら取組んでいく。 ②今後は専門職が関わった事例について研修会等で報告し合い、学部として情報を共有していく。
3 進路指導・支援	キャリア教育の視点を定着させる	指導方法を、ライフキャリア4領域で立案・検証できるようにする 障害者の就労・生活支援の基本的な知識を得た上で進路指導・支援をする	個別教育計画で4領域と学習内容の対応を明確にし、振り返りシート等を活用して指導の改善を図る 進路指導の手引きを活用した校内研修等を実施し、卒業後の生活を理解できるようにする。	4領域に対応させることにより、指導の目的や方法が分かりやすくなり、学習の積み上げができたか 青年期障害者の生活、就労の実態と、それに関わる社会資源が理解でき、指導に役立ったか	①4領域について、保護者と共通理解をしながら指導を行った。また、キャリアの観点を盛り込んだ指導案や振り返りシートを活用することで、ねらいを明らかにし指導の充実を図った。 ②夏季休業中に研修や施設見学を行い知見を広げるとともに、生徒の現場実習の状況について情報を共有し生徒の進路指導に活かした。校内の相談においては、必要な情報を提供した。	①日々の授業案にライフキャリア4領域の視点を入れて作成することは、ほぼ定着した。引き続きそれぞれの場面で「育てたい力」を意識しながら指導を重ねていく。 ②早期から卒業後の生活の見通しを持てるような支援を深めることが課題である。	①(保護者対象アンケート)保護者の86%がキャリアの視点を意識し、ねらいを明確にした指導をしていると肯定的な評価をしている。 ②(保護者対象アンケート)保護者の81%が必要な社会資源を提供し、支援や進路指導を行っているという肯定的な評価をしている。	①保護者からは、肯定的な評価ではある。日々の授業案にライフキャリア4領域の視点を入れて作成することは、ほぼ定着した。引き続きそれぞれの場面で「育てたい力」を意識しながら指導を重ねていく必要がある。 ②教職員、保護者とも、肯定的な評価ではあるが早期から卒業後の生活の見通しを持てるような支援を深めることが課題である。	①キャリア教育について基礎的な知識を再確認する機会を設定し、指導方法を見つめなおす。 ②引き続き、情報提供、企業見学会や施設見学会の参加を呼びかける。

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月21日実施)	総合評価(3月24日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働 地域のセンター的機能の充実によりインクルーシブな社会形成を促進する	地域の子ども、教育機関を支援教育の観点から援助する 地域の人が、本校の教育機能、研修会等を知ることができるようにする	本校の支援機能を広報しながら巡回相談、各種会議へ参加する ホームページで教育活動や研修会、教材教具展等を公開し、刊行物を掲示・回覧する	要請及びニーズに合う巡回相談、会議参加、居住地交流等ができたか ホームページの本校情報が適時更新でき、閲覧されたか	①地域での各種連絡会や協議会等に積極的に参加し、教育相談等についての情報を発信を行った。また地域の小中学校を中心に巡回相談も行った。居住地交流については、個々の状況に合わせて効果的に行われるようにしている。 ②ホームページデザインのリニューアルを行い、配色等工夫してより見やすくした。また、月一回の定期的な更新に努め、本校の研修会の案内や学校行事等をお知らせした。	①高等学校との連携をどのように図っていくのかが課題である。また、ヘルパーやボランティアを確保するのが難しい状況にある。 ②ホームページを見やすくするために、リンクページの分類と整理をする。	①(保護者対象アンケート)保護者の24%がわからないと回答している。(学校評議員)基幹相談センターなどを利用し個別支援計画とリンクして取組んでいけるとよい。また相談の早い段階からつながるとよい。 ②(保護者対象アンケート)保護者の31%がわからないと回答している。(学校評議員より)ホームページに興味をわく工夫と見てもらうための広報が必要である、	①地域での各種連絡会や協議会等に積極的に参加し、教育相談等についての情報発信を行った。また地域の小中学校を中心に巡回相談も行った。高等学校との連携をどのように図っていくのかが課題である。また、ヘルパーやボランティアを確保するのが難しい状況にある。 ②ホームページデザインのリニューアルを行い、配色等工夫してより見やすくした。また、月一回の定期的な更新に努め、本校の研修会の案内や学校行事等をお知らせした。よりホームページを見やすくするために、リンクページの分類と整理をする必要がある。	①県立学校教育相談コーディネーター会議を利用して、各学校のコーディネーターやスクールソーシャルワーカーと情報交換を行う。また、地域向けの広報や連絡会等で、ヘルパーやボランティアを呼びかける。 ②ホームページを見やすくするために、リンクページの分類と整理をする。更新したことをお知らせする。学校だよりを自治会へ回覧する。本校のセンター機能を学校便りやホームページを使い紹介する。またカウンターをつけ閲覧状況がわかるようにする。
5	学校管理 学校運営 保護者・地域から信頼を得られる学校運営を行う	医療ケアを安全に実施し、教育効果をあげる 具体的想定で防災計画を充実させる	人工呼吸器校内マニュアル等を整える 避難場所を複数設定し、状況に合わせて選択する体制を整える	人工呼吸器マニュアル等が整理され、適時見直しできたか 2箇所以上の避難場所が設定でき、訓練できたか	①医療ケアやアレルギー対応に取組み、校内外での活動を安全に実施できるようにした。 ②火災時はバスロータリー、地震時は各教室、津波発生時は2階へ避難するという骨子を固め、それぞれを想定した訓練を行った。また、事前告知なしで地震警報を鳴らし、机の下にもぐったり頭を守ったりする訓練も行った。	①安全の上での学校生活を充実させていくことと保護者の理解を進めることが課題である。 ②広報交流チームと連携し、ホームページを活用して保護者及び近隣住民に対して、本校の災害対策を知ってもらう。	①(保護者対象アンケート)保護者の27%がわからないと回答している。 ②(保護者対象アンケート)保護者の83%が学校で実施している訓練内容・方法について十分だと肯定的な評価をしている。(学校評議員)災害時に通学途中の場合、どう対応すればよいかを地域の人には分からない。地域の災害対策委員会で、障害者への対応方法を伝えていきたい。仲介役になってほしいので、地域に出て発信して欲しい。	①医療ケアやアレルギー対応に取組み、校内外での活動を安全に実施できるようにした。今後は、安全に配慮した上での学校生活を充実させていくことと保護者の理解を進めることが課題である。 ②2箇所以上の避難場所が設定でき、訓練することができた。登下校途中に避難する状況になった場合を考えると、今後は、地域の防災委員と協力していく必要がある。	①緊急時対応訓練を定期的に行いながら、必要に応じてマニュアルの見直しを行う。必要に応じて保護者会定期以外にも実施する。 ②児童生徒の近隣活動における防災対策について、地域の防災委員と情報交換を行う。ホームページを活用して保護者及び近隣住民に対して、本校の災害対策を知ってもらう。